

# コロナ禍 変わるお別れ

新型コロナウイルスの感染拡大で、葬儀のあり方が変化している。遠方や感染拡大地域から駆けつけられない人のため、オンラインで葬儀を中継するサービスが生まれ、通夜を行わないなど簡素化の動きも加速。コロナ終息後も見据えた「お別れ」の新たな形となるのか注目される。



オンライン中継に向け、スマホの撮影位置を調整する「ベルこばやし」の池杉副社長（3月18日、上越市藤巻で）

## 葬儀をオンライン中継

広々としたセレモニーホールに、間隔を空けて並べられた椅子。その後方で、上越市の葬祭業「ベルこばやし」の池杉副社長（62）が三脚にスマートフォンを設置していた。故人の遺影や参列者の後ろ姿を映すため、照明が暗くなりすぎないように調整にも余念がない。

同社は3月、「オンライン葬儀 つなぐ」のサービスを始めた。新型コロナウイルスの感染を懸念し、参列できない遺族のために、スマホで通夜や葬儀の様子を撮影し、動画配信サイト「YouTube」で生中継する。葬儀後1週間ほどは専用サイトにアップし、当日都合のつかない人も見ることができるようになる。

## 参列者減、「一日葬」簡素化加速

池杉副社長は「葬儀の簡素化が進み、別れを大事にする風土まで失われてしまっているのでは」と話す。オンラインなら感染を気にせず、遠方の人でも参列できるといい、「コロナ禍でも故人とのつながりを大切にしたい」と語る。

オンラインの活用は葬儀にとどまらない。新潟田市の長徳寺は昨年のお盆に、永代供養の法要をオンライン中継し、30〜40人が参列した。その後も一週忌や三回忌の法要をビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で中継し、マレーシアから参加した人もいたという。

住職の関根正隆さん（44）は「海外在住の人や足の不自由な高齢者が参列する選択が増えた。新型コロナウイルス後もこうしたニーズは増えると思う」と話す。

オンラインの活用は葬儀にとどまらない。新潟田市の長徳寺は昨年のお盆に、永代供養の法要をオンライン中継し、30〜40人が参列した。その後も一週忌や三回忌の法要をビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で中継し、マレーシアから参加した人もいたという。

## ア運航開始 4路線で

### LCC県内に本社

セミナー後、取材に応じる長谷川社長（6日、新潟市中央区の市産業振興センターで）

### 来年関西圏、愛知など

県内に本社を置く初めての格安航空会社（LCC）として2022年の運航開始を目指している「トキエア」（新潟市中央区）が、新潟空港と北海道、関西圏などを結ぶ4路線で運航をスタートさせる見通しであることがわかった。新潟市で6日に開かれた企業向けセミナーで、同社の長谷川政樹社長（53）が明らかにした。

新潟空港と、関西圏、愛知、北海道（丘珠）、仙台を結ぶ4路線でスタートし、その後、新潟―佐渡や新潟―東京に路線を増やす計画という。長谷川社長は、佐渡―東京路線についても「何とか飛ばしたい。佐渡金銀山が世界遺産になれば観光面の期待も高まる」と話し、関係機関と調整していることを明らかにした。

### 新たに20人感染 1週間あたり最多

6人となった。1週間あたりの感染者数はこれまで121人が最多だが、3月31日、4月1日の直近2日間、この日感染が発表したのは、新潟市の8人、市の4人、魚沼市の10日町市と南魚沼市、田市、長岡市、津南町、住地非公表の各1人



展示されている巨大なヒスイ（2日、新潟市中央区新光町の「知足美術館」で）

## ヒスイ文化を解説

知足美術館 原石など並ぶ

ヒスイ研究の第一人者と知られる茅原一也・新潟大名菅教授（1921〜2006年）の生誕100周年を記念し、新潟市中央区新光町の知足美術館で企画展「ヒスイ文化を読む」が開かれている。

この日感染が発表したのは、新潟市の8人、市の4人、魚沼市の10日町市と南魚沼市、田市、長岡市、津南町、住地非公表の各1人

### 東電社員 14日県議

東京電力柏崎刈羽発電所でテロ対策の相次いで発覚した問題。県議会は6日の議事録で、14日に全出席する連合委員会、東電の小早川社長を参考人招致することを決めた。一連の問題

### 堤防で転落か 捜索6時間 釣り具残し立ち去っただけ